

STOP!

転倒災害



転倒災害は、どのような職場でも発生する可能性があります。

職場での転倒の危険性は、働くすべての人が問題意識を持って原因を見つけ、対策をとることで減らすことができます。

転倒災害防止対策により安心して作業が行えるようになり、作業効率が上がります。

できるところから少しずつ取り組んでいきましょう!!

令和元年における「転倒災害」は、休業4日以上の労働災害の中で22.0%を占め、ワースト1位となっています。

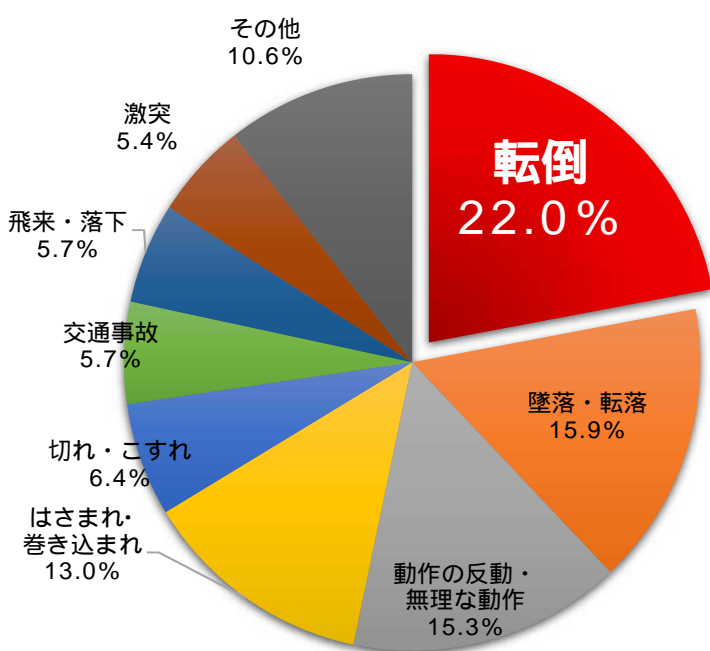


図1 全産業での事故の型別労働災害発生状況（令和元年）
資料：労働者死傷病報告

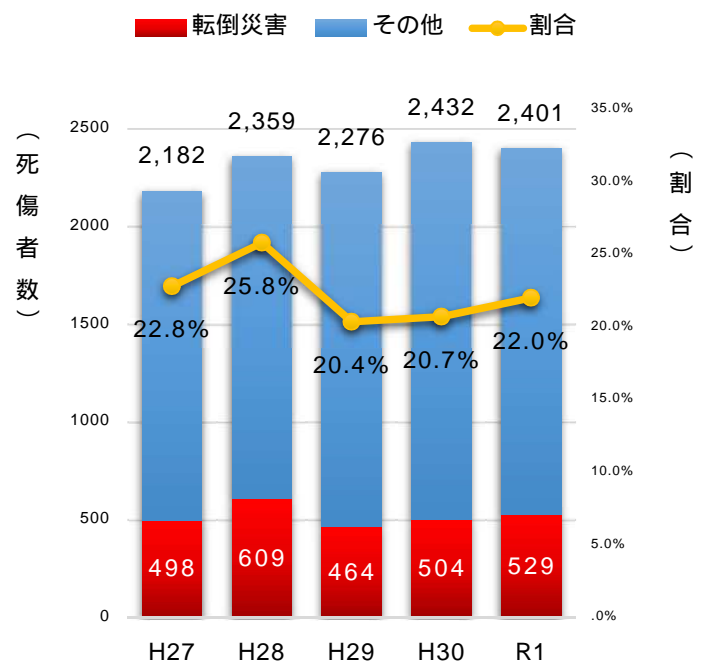


図2 転倒災害の年別推移（平成27年～令和元年）
資料：労働者死傷病報告

業種別では、製造業115件(21.7%)、商業111件(21.0%)、保健衛生業82件(15.5%)、接客娯楽業75件(14.2%)で、これらの業種で全体の7割以上を占めています。

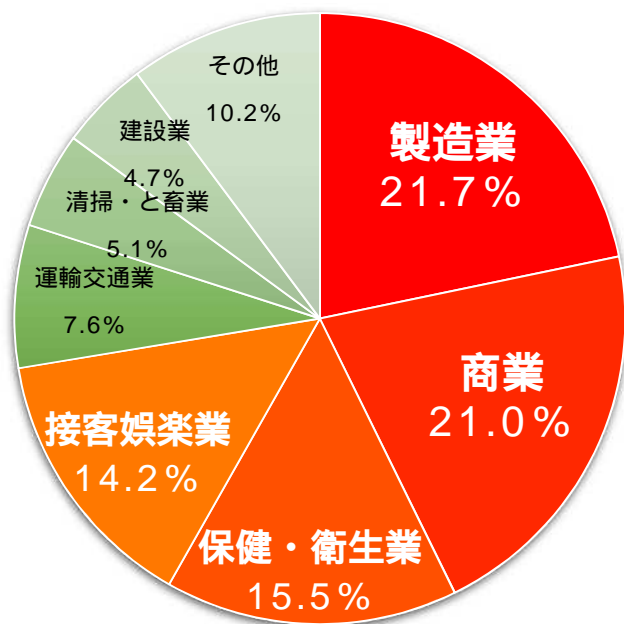


図 3 業種別労働災害発生状況 (令和元年)
資料: 労働者死傷病報告

「転倒災害」は50歳以上が全体の約7割を占めています。

これは加齢による体力の衰え・身体機能の低下が考えられます。

また、一般的に女性は男性より筋肉量が少ないこともあるため、転倒時の衝撃を和らげることができず、まともに大きな衝撃を受けやすいので注意が必要です。

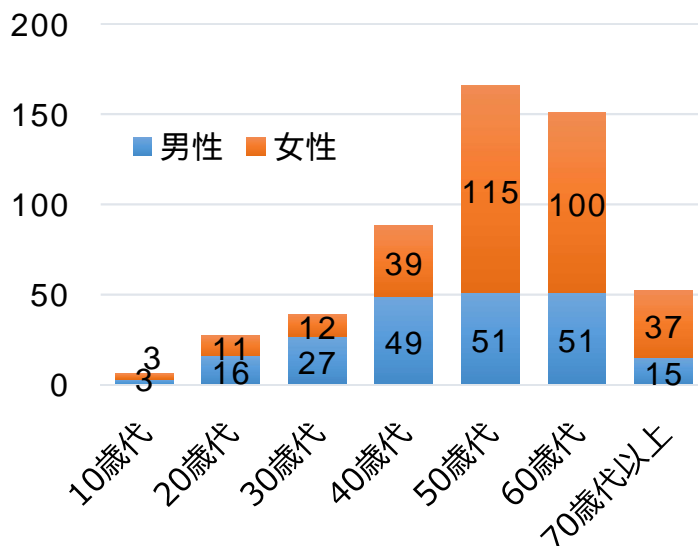
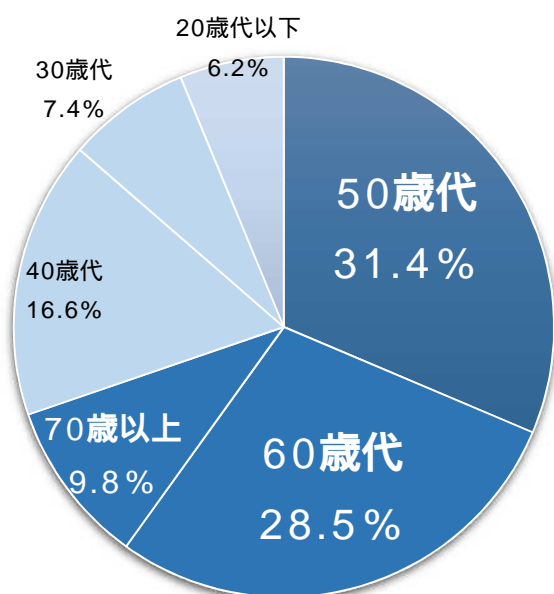


図 4 転倒災害における年代別労働災害発生状況 (令和元年)
資料: 労働者死傷病報告

図 5 転倒災害における年代別性別労働災害発生状況 (令和元年)
資料: 労働者死傷病報告

転倒災害は「通路」や「作業床」で多く発生しています。

物につまずいたり、床・地面ですべったりすることのほか、動作の反動で転倒することも多くなっています。

身体強度や運動機能が低下すると、転倒しやすく、わずかなつまずきであっても被災の重篤度が高まる傾向があります。

自分の身体的能力を過信しないことが重要です。

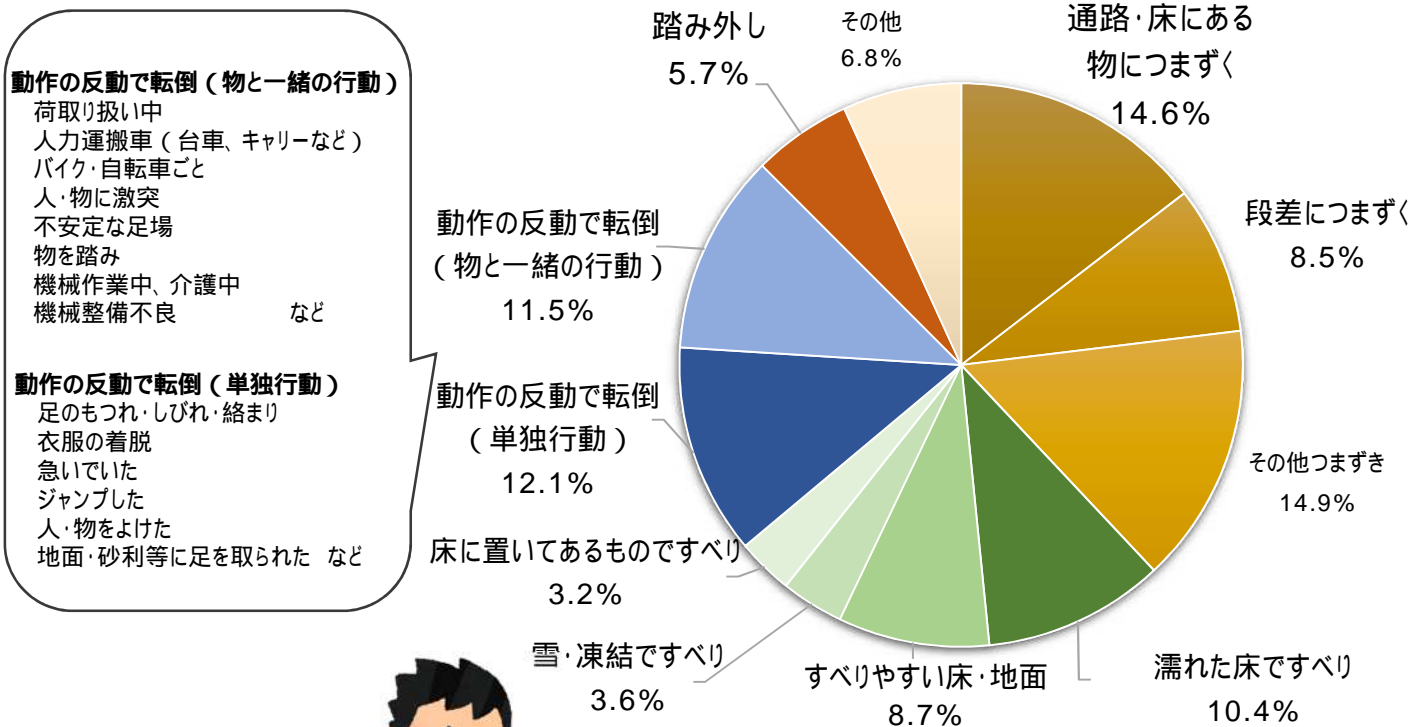


図 6 転倒災害の具体的な発生内容（令和元年）
資料：労働者死傷病報告



日頃から意識して転倒災害を防止しましょう！

4 S (整理・整頓・清掃・清潔)を徹底しよう！

転倒しにくい作業方法を実施しよう！

転倒危険場所を「見える化」しよう！

時間に余裕を持って行動しよう！

日頃から足腰を鍛えよう！



あなたの職場は大丈夫？転倒の危険をチェックしてみましょう

✎ 転倒災害防止のためのチェックシート ✎

チェック項目		<input type="checkbox"/>
1	通路、階段、出口に物を放置していませんか	
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	
3	安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか	
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	
5	作業靴は、作業現場に合った耐滑性があり、かつちょうど良いサイズのものを選んでいませんか	
6	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていませんか	
8	ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか	
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	

チェックの結果はいかがでしたか？ 問題のあったポイントが改善されれば、きっと作業効率も上がって働きやすい職場になります。

どのように改善するか「安全委員会」などで、全員でアイデアを出し合いましょう！

